取扱説明書

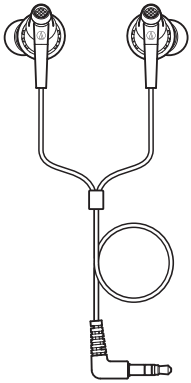
audio-technica

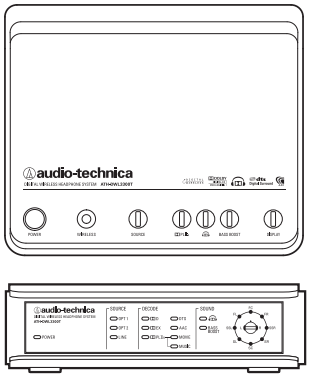
DIGITAL WIRELESS HEADPHONE SYSTEM

ATH-DWL3300

DIGITAL WIRELESS

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、
正しくご使用ください。
また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管
しておいてください。





DOLBY DIGITAL EX PRO LOGIC IIx

dts Digital Surround

AAC

C O N T E N T S

3 内容物の確認

4 本製品の特長

6 安全上の注意

- *6* トランスミッター / レシーバーについて
- *7* ヘッドホンについて
- *7* AC アダプターについて
- *8* 内蔵充電式電池について

9 使用上の注意

10 ワイヤレス製品について

12 各部の名称と機能

- *12* トランスミッター / リモコン付きレシーバー
- *15* ヘッドホン

16 インジケーターの見かた

- *16* トランスミッター
- *20* リモコン付きレシーバー

21 充電のしかた（リモコン付きレシーバー）

22 接続のしかた

- *22* デジタル音声を入力する場合
- *23* アナログ音声を入力する場合

24 使いかた

- *24* ワイヤレスヘッドホンで音声を聞く
- *26* レシーバー（ヘッドホン）を増設する
  - *26* レシーバーとトランスミッターのペアリングのしかた
- *27* そのほかの機能
  - *27* 送信周波数の変更
  - *27* 電源スタンバイ機能 / 電源オフ機能
  - *27* オートパワーオフ機能
  - *28* ラスト・ファンクション機能
  - *28* ディスプレイオフ機能
  - *28* レシーバーホールド機能
- *29* リセットのしかた

30 お手入れのしかた

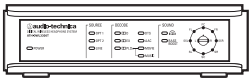
31 故障かな?と思ったら

34 テクニカルデータ

35 アフターサービスについて

内容物の確認

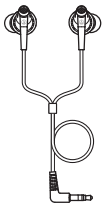
本製品を使用する前に、下記のものがすべてそろっていることを確認してください。
万一、不足など問題がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口（35ページ）へご連絡ください。



トランスミッター
（ATH-DWL3300T）×1

リモコン付きレシーバー
（ATH-DWL3300R）×1

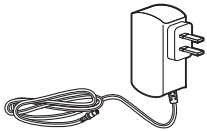
※取扱説明書（本書）内では、
リモコン付きレシーバーを
「レシーバー」と記載している
場合があります。



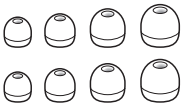
ヘッドホン
（ATH-DWL3300E）×1

ヘッドホン延長コード
（0.6m）×1

光デジタルケーブル
（角形光プラグ、1.5m）×1



ACアダプター
（AD-SD0520AD）×2



イヤピース
（XS,S,M,Lサイズ）×各1ペア

※お買い上げ時はMサイズが
装着されています。

・取扱説明書（本書）
・保証書

本製品の特長

本製品は、2.4GHz 帯の電波を使用した、高音質デジタルワイヤレス伝送システムを採用しています。現在利用されているさまざまなマルチチャンネル・サウンドフォーマットに対応しています。
また、ステレオ音声や5.1ch音声を 7.1ch音声化できる「ドルビープロロジックⅡx」など、デジタルサラウンドを楽しむための機能を搭載しています。

最新デジタルオーディオシステム

デジタルワイヤレス伝送方式

高音質なデジタルオーディオ信号を、非圧縮のままレシーバーに送信するため、ノイズの少ないクリアな音声をワイヤレスでお楽しみいただけます。電波を利用したワイヤレス方式のため、従来の赤外線方式よりも広い範囲（トランスミッターの周囲約30m）でご使用いただけます。

高性能デジタルシグナルプロセッサー

AV機器に最適なデジタル信号処理専用プロセッサーによる32bitの浮動小数点演算で、ダイナミックレンジを損なうことなく、マルチチャンネル音声のデコードやデジタルサラウンドなどの高度な信号処理を実行します。

多彩なサラウンドフォーマットに対応

ドルビーデジタル *

ドルビーデジタルはドルビーラボラトリーズ社が開発したマルチチャンネル音声方式です。
最大5.1chに対応します。

ドルビーデジタル EX*

ドルビーデジタルEXはドルビーラボラトリーズ社とTHX社が開発したマルチチャンネル音声方式です。最大6.1chに対応します。

DTS**

DTSはDTS,inc.が開発したマルチチャンネル音声方式です。最大5.1chに対応します。
（「DTS-ES」音声も、5.1chで再生します。）

AAC

AAC（MPEG-2 AAC）は MPEG 標準化団体によって標準化された音声データを圧縮する技術です。最大 5.1ch に対応します。地上デジタル放送や BS デジタル放送などのデジタル放送で使用されます。

ドルビープロロジックⅡx

従来のドルビープロロジックⅡはステレオ音声を 5.1ch 音声化するものでしたが、ドルビープロロジックⅡxはステレオ音声だけでなく 5.1ch 音声も 7.1ch 音声化することができる技術です。2 つのモード（MOVIE/MUSIC）から視聴に適した音場を選択することができます。

MOVIE：映画再生に適した音場に調節します。
MUSIC：音楽再生に適した音場に調節します。

※本製品では「ドルビーデジタルサラウンド EX」音声をドルビー EX デコーダーを用いて 6.1ch 音声で再生することも、ドルビープロロジックⅡx デコーダーを用いて 7.1ch 音声で再生することもできます。

・ドルビー EX デコーダーを用いて 6.1ch 音声で再生する場合、作品の製作時に想定された音声を忠実に再現することができます。

・ドルビープロロジックⅡx デコーダーを用いて 7.1ch 音声で再生する場合、より滑らかな音の移動感や強い包囲感を得ることができます。

本格的なサラウンドを手軽に

ドルビーヘッドホン

ドルビーヘッドホンは、ヘッドホンによってスピーカー再生の音場を再現します。映画館やホームシアターなど広い空間で視聴しているような、迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。本システムのドルビーヘッドホンは最大7.1ch に対応しています。また、マルチチャンネル音声だけでなくステレオの音声にも効果が得られます。

本製品のプロセッサーは、ドルビーデジタルデコーダー、ドルビーEXデコーダー、ドルビープロロジックⅡxデコーダー、DTS デコーダー、およびMPEG-2 AAC デコーダーを搭載しています。
本製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
本製品はDTS,inc からの実施権に基づき製造されています。

* Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、"AAC"ロゴおよびダブルD記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

** Manufactured under license under U.S. Patent #' s: 5,956,674; 5,974,380; 6,487,535 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks & DTS Digital Surround and the DTS logos are trademarks of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.

安全上の注意

本製品は安全性には充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
⚠警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

トランスミッター / レシーバーについて

レシーバーには、リチウムポリマー充電池を内蔵しています。「電池について」もあわせてお読みください。

⚠警告

●心臓ペースメーカーの装着部位から22cm 以内の場所では使用しない
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。

●本製品を医療機器の近くで使用しない
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでください。

●付属の AC アダプター以外使用しない
故障、不具合の原因になります。

●本製品に異物 (燃えやすい物、金属、液体など) を入れない
感電、故障や火災の原因になります。

●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

●異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐにコンセントから抜き、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに修理を依頼してください。

●分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。

●強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。

●濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。

●水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。

●布などでおおわない
過熱による火災やけがの原因になります。

⚠注意

(*) 印はトランスミッターのみの内容です。

●不安定な場所に設置しない (*)
転倒などによりけがや故障の原因になります。

●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。

●火気に近付けない
変形、故障の原因になります。

●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

ヘッドホンについて

⚠ 警告

●自動車、バイク、自転車など、乗り物の運転中は絶対に使用しない
交通事故などけがの原因となります。

●周囲の音が聞こえないと危険な場所（踏切、駅のホーム、工事現場、車や自転車の通る道など）では使用しない
交通事故などけがの原因となります。

●本製品は密閉度が高く、外部の音が聞こえにくくなります。周囲の音が聞こえる音量で、安全を確かめながらご使用ください。

●イヤピースは幼児の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

●本製品を使用中に気分が悪くなった場合は、すぐにご使用を中止してください。

●耳をあまり刺激しない適度な音量で使用する
大音量で長時間聴くと聴力に悪影響を与えることがあります。

●肌に異常を感じた場合は、すぐに使用を中止する

●分解や改造はしない
故障の原因になります。

●ヘッドホンを耳から外したときは、必ずイヤピースが本体に付いているかご確認ください。イヤピースが耳の中に残り取り出せない場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

●本製品は耳をふさぐ形状のため、蒸れによりかゆみなどを感じることがあります。その場合は一旦ご使用を中止してください。

ACアダプターについて

⚠ 警告

●AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)
過熱による火災など事故の原因になります。

●異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。

●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。

●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。

●本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。

●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。

●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。

●分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。

●強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。

⚠ 警告

●濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。

●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。

●布などでおおわない
過熱による火災など事故の原因になります。

●ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

●長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。

●通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

●足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。

内蔵充電式電池について

本製品のレシーバーには、リチウムポリマー充電池を内蔵しています。

⚠ 危険

●電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。

●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。

●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
・液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、当社サービスセンターまでご相談ください。
・万が一なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

●落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●以下の場所で使用、放置、保管しない
• 直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
• 炎天下の車内
• ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。

●水に濡らさない
発熱の原因になります。

●付属のACアダプター以外で充電しない
故障や火災の原因になります。

⚠ 注意

●機器を使用した後は必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。

■本製品を廃棄する場合・リサイクルのお願い

内蔵充電池はリサイクルできます。
本製品を廃棄するにあたり、リサイクルにご協力いただける場合は本製品を下記宛先まで着払いにてお送りください。なお、電池を取り出したあとの本製品は返却いたしかねますので予めご了承ください。

送り先：　〒915-0003 福井県越前市戸谷町 87-1
株式会社テクニカフクイ　サービス課　宛
TEL：0778-25-6736

■内蔵充電池の交換のしかた

本製品を充分に充電しても使用時間が短くなった場合は、内蔵充電池の寿命が考えられます。
内蔵充電池の交換は、お客様ご自身で行なわず、当社サービスセンターへご相談ください。

●サービスセンター　0120-887-416
携帯電話・PHS などのご利用は　03-6746-0212

使用上の注意

- ●ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- ●本製品の近くに電子機器や発信機（携帯電話など）があると本製品にノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- ●本製品を設置する際、トランスミッターとレシーバーの間に電波をさえぎるような障害物がないようにしてください。
- ●テレビやラジオのアンテナ付近で使用すると、テレビやラジオにノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- ●内蔵充電池の消耗を防ぐため、使用後や本製品を使用しないときはレシーバーの電源を切ってください。
- ●本製品は長い間使用すると、紫外線（特に直射日光）や摩擦により変色することがあります。
- ●コードおよびケーブルは必ずプラグを持って抜き差ししてください。引っ張ると断線や事故の原因になります。特に光デジタルケーブルは折り曲げたりしないでください。
- ●コードをレシーバーなどに巻き付けないでください。断線の原因になります。
- ●一度外したイヤピースを同梱のヘッドホンに付ける際は、確実に取り付けられているかを確認してください。脱落したイヤピースを耳の中に残ったままにすると、けがや病気の原因になります。

- ● レシーバーは同梱のヘッドホン以外も使用できます。接続するヘッドホンによっては、サラウンドの感じかたが変わる場合もあります。同梱しているヘッドホン以外を使用した場合は、動作保証いたしません。

  推奨インピーダンス：16Ω～ 64Ω　（インピーダンスが大きいと音量が小さくなります。）

- ● 取扱説明書（本書）には同梱しているヘッドホンおよびイヤピースについての内容を記載しています。同梱しているヘッドホン以外を使用する場合は、使用するヘッドホンの取扱説明書をお読みください。
- ● レシーバーのヘッドホン出力端子はφ3.5mmステレオミニジャックです。スマートフォン用などの 4極ミニプラグのヘッドホンには対応しておりません。
- ● レシーバー1台にヘッドホンを1台接続してください。分配プラグや分配コードなどは使用しないでください。複数のヘッドホンを使用したい場合は、別売の増設用レシーバーセット ATH-DWL3300RE をお買い求めください。

ワイヤレス製品について

本製品は 2.4GHz の周波数帯を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許が必要）、特定小電力無線局（免許が不要）、およびアマチュア無線局（免許が必要）が運用されています。

1. 使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の送信を停止してください。そのうえで当社お客様相談窓口（35 ページ）にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーテーションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や、ご不明な点がございましたら、当社お客様相談窓口（35 ページ）までお問い合わせください。

- 本製品は日本国内でのみご使用いただけます。
- 本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けた特定無線設備を用いています。無線局の免許は必要ありません。
- 以下の行為は、法律で禁じられてます。
  - 分解や改造を行なう。
  - 本体内部に貼付の技術基準適合証明ラベル（ マークを含むラベル）をはがす。
- 本体の表示について

  2.4DS4 ■■■ この無線器が 2.4GHz 帯を使用し、DS-SS 変調方式、与干渉距離が 40 m であることを表します。

- 使用可能範囲

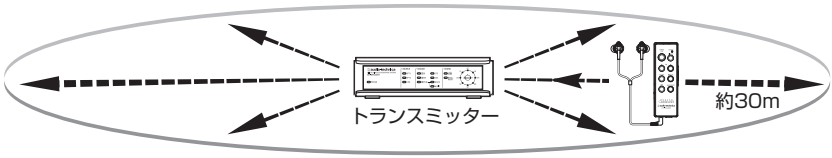
  トランスミッターから約 30 mの範囲でご使用いただけます。トランスミッターとレシーバーの間に障害物がある場合や建物の構造などによっては、使用可能な距離が短くなる場合があります。

- ほかの機器との同時使用

  Bluetooth 搭載機器・無線 LAN を使用する機器・デジタルコードレス電話・電子レンジなど、本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する機器の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、これらの機器と離して設置してください。設置場所の変更で影響が回避できない場合は、「送信周波数の変更」を行なってください。（27 ページ）

ワイヤレスシステムについて

本製品はトランスミッターに接続した音声をレシーバーへ無線伝送します。
また、レシーバーからトランスミッターへ通信状況などの情報を無線伝送します。
レシーバーへ伝送可能な距離は、トランスミッターからの見通しで約30mです。



ペアリングについて

本製品はレシーバーとトランスミッターのペアリング（ID 登録）を行なうことによって、ワイヤレスヘッドホンから音声を再生することができます。お買い上げ時には同梱のレシーバーとトランスミッターの組み合わせでペアリング済みです。
別売りの増設用レシーバーセット（ATH-DWL3300RE）を使用する場合や、万一お買い上げ時のペアリングがリセットされてしまった場合には、改めてペアリングを行なってください。（26 ページ）

各部の名称と機能

トランスミッター / リモコン付きレシーバー

＊取扱説明書（本書）内ではリモコン付きレシーバーを「レシーバー」と記載している場合があります。

① POWER ボタン（POWER）

トランスミッターの電源をオン / スタンバイ / オフに切り換えます。（25、27 ページ）

※トランスミッターの電源オフ時は、レシーバーからの操作ができません。（27 ページ）

※レシーバーでは、トランスミッターの電源をオフにできません。

② WIRELESS ボタン（WIRELESS）

送信周波数の変更＊や、レシーバーとトランスミッターのペアリングを行ないます。（26、27 ページ）

※レシーバーでは変更できません。

③ SOURCE ボタン（SOURCE）

視聴する入力端子を切り換えます。（16、25 ページ）

④ DOLBY PLⅡx ボタン（ DPLⅡx ）

ドルビープロロジックⅡx の動作を切り換えます。（5、17、25 ページ）また、音声モード（主音声 / 副音声）の切り換え時に使用します。（19 ページ）

⑤ DOLBY HEADPHONE ボタン（ ）

ドルビーヘッドホンのオン / オフを切り換えます。（5、17、25 ページ）

⑥ BASS BOOST ボタン（BASS BOOST）

バスブーストの動作を 6 段階で切り換えます。（19、25 ページ）

⑦ DISPLAY ボタン（DISPLAY）

POWER インジケーター以外のインジケーターの表示をオン / オフで切り換えます。（28 ページ）

⑧ STATUS インジケーター（STATUS）

レシーバーの状態をインジケーターの色や動作で表します。（20 ページ）

⑨ ボリュームボタン（VOL ▼▲）

音量を調整するときに使用します。
「▲」は音量が大きくなります。
「▼」は音量が小さくなります。（20、25 ページ）

⑩ リセットボタン（RESET）

万一、レシーバーがフリーズしたときなど、レシーバーのリセットをします。（29 ページ）

⑪ クリップ

衣服などに固定する際、使用します。

⑫ POWER/HOLD スライドスイッチ

スライドさせてレシーバーの電源のオン / オフや、ボタン操作のホールドを切り換えます。（25、26、28 ページ）

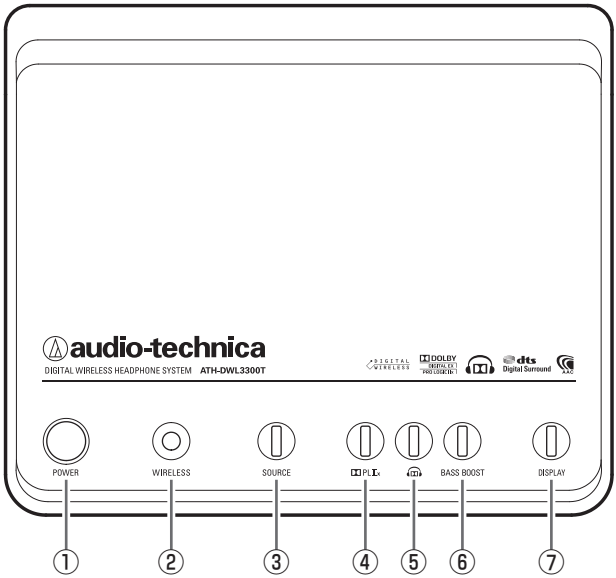
⑬ ヘッドホン出力端子

φ3.5mm ステレオミニジャックです。
同梱のヘッドホンまたはお手持ちのヘッドホンを接続してください。（9、24 ページ）

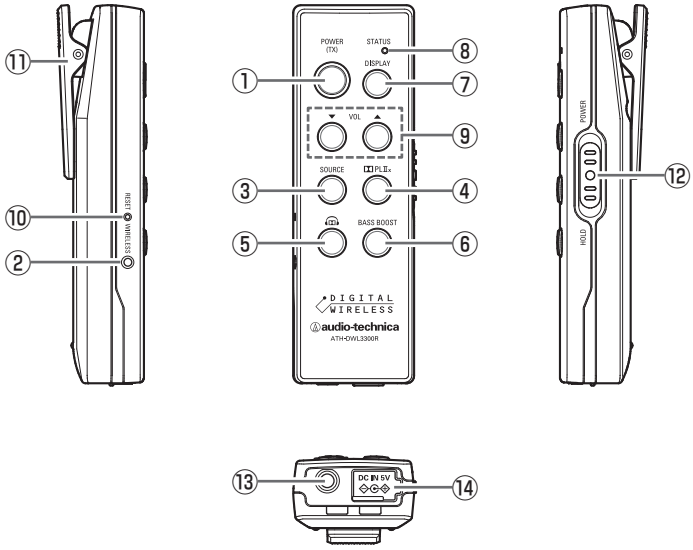
⑭ DC 入力端子

レシーバーを充電するときに、カバーを外して付属の AC アダプターを接続します。（21 ページ）

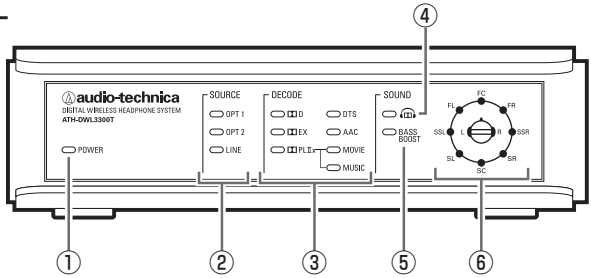
トランスミッター
天面



リモコン付きレシーバー



トランスミッター
前面



① POWER インジケーター（POWER）

電源の状態を表示します。（16 ページ）
オン：緑、 スタンバイ：赤、 オフ：消灯

※ WIRELESS ボタン操作時やお買い上げ時の設定に戻しているときは橙色に点灯します。

② SOURCE インジケーター（SOURCE）

選択している入力端子を表示します。
（16 ページ）

③ DECODE インジケーター（DECODE）

動作しているデコーダーを表示します。
（17 ページ）

④ DOLBY HEADPHONE インジケーター（ ）

ドルビーヘッドホンが動作しているとき、点灯します。（17 ページ）

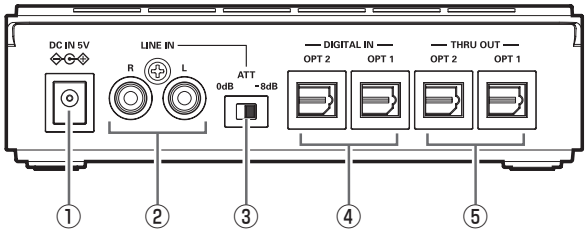
⑤ BASS BOOST インジケーター（BASS BOOST）

バスブーストが動作しているとき、点灯します。（17、19 ページ）

⑥ 音声チャンネルインジケーター

再生している音声チャンネルを表示します。
BASS BOOST ボタンを操作しているときは、その値を表示します。（18、19 ページ）

背面



① DC 入力端子（DC IN 5V）

付属の AC アダプターを接続します。（24 ページ）

② アナログ入力端子（LINE IN）

ビデオデッキなどのアナログ出力端子と接続します。（23 ページ）

③ アナログ入力レベル切り換えスイッチ

アナログ入力のレベルを切り換えます。

※お買い上げ時：−8dB （23 ページ）

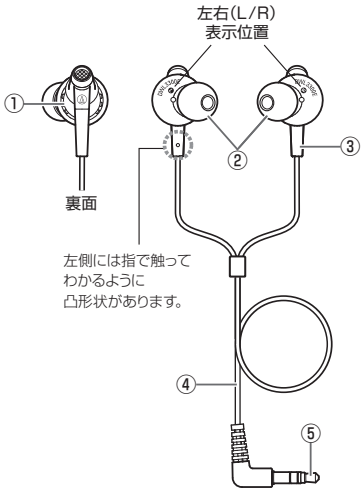
④ デジタル入力端子（DIGITAL IN OPT1/OPT2）

DVD プレーヤーなどのデジタル出力端子と接続します。（22、23 ページ）
形状は角形光ジャックです。

⑤ デジタルスルー出力端子（THRU OUT OPT1/OPT2）

デジタル入力端子に入力した信号をそのまま出力します。形状は角形光ジャックです。
（23 ページ）

ヘッドホン　※同梱のヘッドホンの内容です。



① ハウジング

② イヤピース

③ ブッシュ

④ 0.6m コード

⑤ φ3.5mm 金メッキ
ステレオミニプラグ (L型)

イヤピースについて　※同梱のイヤピースの内容です。

■ イヤピースのサイズ／種類について

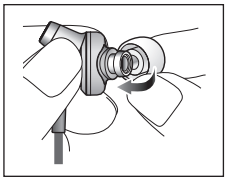
本製品は、4 サイズのイヤピース XS、S、M、L を付属しており、お買い上げ時は同梱のヘッドホンに M サイズが装着されています。

よりよい音質で楽しんでいただくために、イヤピースのサイズを換えて、イヤピースを耳の収まりのよい位置に調節してください。イヤピースが耳にうまく装着されていないと低音が聞こえにくいことがあります。

■ 交換のしかた

同梱のヘッドホンからイヤピースを外し、新しいイヤピースを斜めから押し当てます。(図参照)
内側を広げるように強く押し込み、奥までしっかり取り付けてください。

※イヤピースが外れにくい設計にしているため、取り付けがきつくなっています。



■ お手入れのしかた

ヘッドホンからイヤピースを外し、うすめた中性洗剤で手洗いしてください。洗浄後は乾いてからご使用ください。

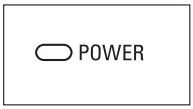
⚠ 注意

- イヤピースは汚れが付きやすいため、定期的に取り外しお手入れをしてください。汚れが付いたまま使用すると、イヤピースを通してヘッドホンの音が出る部分が汚れ、音質が悪くなる恐れがあります。
- イヤピースは消耗品のため、保存や使用により劣化します。嵌合がゆるくなるなどの劣化が見られた場合は交換イヤピースを販売店でお買い求めください。
- 一度外したイヤピースをヘッドホンに付ける際は、確実に取り付けられているかを確認してください。イヤピースが耳の中に残ったまま放置すると、けがや病気の原因になります。

インジケーターの見かた

トランスミッター

POWER インジケーター

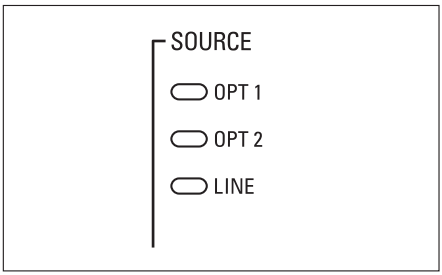


電源の状態を表示します。

消灯	トランスミッターの電源がオフ
赤	トランスミッターがスタンバイ状態
緑	トランスミッターの電源がオン
緑点滅	トランスミッターの起動中
橙点滅	ペアリング動作中、 送信周波数の変更中およびリセット中

※お買い上げ時は、赤色点灯でスタンバイ状態になります。

SOURCE インジケーター



選択している入力端子を表示します。

OPT1*

デジタル入力（OPT1 入力端子）が選択されていることを示します。お買い上げ時は OPT1 に設定されています。

OPT2*

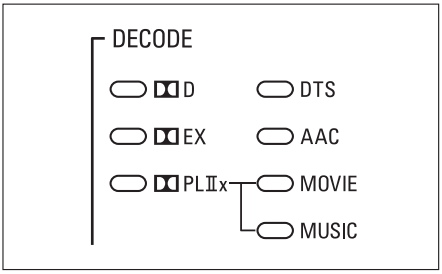
デジタル入力（OPT2 入力端子）が選択されていることを示します。

＊本製品の対応していないサンプリング周波数（32/44.1/48kHz 以外）のデジタル信号を OPT1、OPT2 に入力するとインジケーターは点滅し、音声は出力されません。

LINE

ライン入力（アナログ入力端子）が選択されていることを示します。
SOURCE ボタンを押すごとに、OPT2、LINE、OPT1、OPT2、LINE・・・の順で切り替わります。

DECODE インジケーター



ドルビーデジタル / ドルビーデジタル EX/DTS/AAC の信号が入力された場合は、各デコーダーが自動的に動作しインジケーターが点灯します。ドルビープロロジックⅡx の動作は手動で設定します。

※ドルビープロロジックⅡxはステレオ（2ch）音声のほか、5.1ch 音声に対しても有効です。（モノラル音声には適用していません。）

DOLBY DIGITAL (D)

ドルビーデジタルのデコーダーが動作していることを示します。

DOLBY EX (EX)

ドルビー EX のデコーダーが動作していることを示します。ドルビーデジタル EX の信号入力時にドルビー EX デコーダーで最大 6.1ch の再生をしているとき、DOLBY　DIGITAL インジケーターと同時に点灯します。

ドルビーデジタル EX 信号入力時でも、ドルビー EX デコーダーではなくドルビープロロジックⅡx デコーダーを用いて最大 7.1ch の再生をしているときは点灯しません。

DTS (DTS)

DTS のデコーダーが動作していることを示します。

AAC (AAC)

AAC のデコーダーが動作していることを示します。

DOLBY PLⅡx (PLⅡx)

ドルビープロロジックⅡxのデコーダーが動作していることを示します。

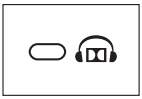
MOVIE

MOVIE モードが選択されていることを示します。映画再生に適した音場になります。

MUSIC

MUSIC モードが選択されていることを示します。音楽再生に適した音場になります。

DOLBY HEADPHONE インジケーター

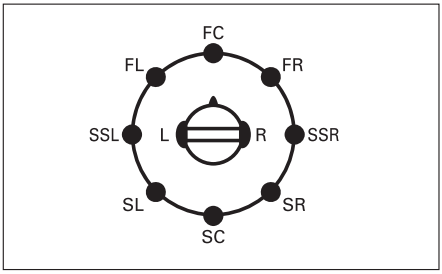


ドルビーヘッドホンが動作しているとき、インジケーターが点灯します。

BASS BOOST インジケーター

バスブースト機能が動作しているとき、インジケーターが点灯します。

音声チャンネルインジケーター



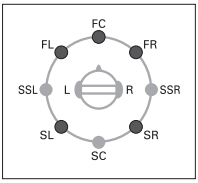
音声チャンネルインジケーターは、再生する音声チャンネルの数と方向を表示します。

※中央は、人物を上から見たイメージです。

FL/FR	: フロント L/R スピーカー
FC	: フロントセンタースピーカー
SSL/SSR	: サラウンドサイド L/R スピーカー
SL/SR	: サラウンド L/R スピーカー
L/R	: ヘッドホン L/R
SC	: サラウンドセンタースピーカー

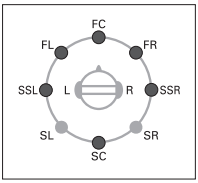
5.1ch サラウンド再生時

5.1ch サラウンドスピーカーシステムの音場を再現しています。



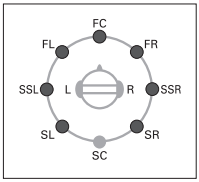
6.1ch サラウンド再生時

6.1ch サラウンドスピーカーシステムの音場を再現しています。



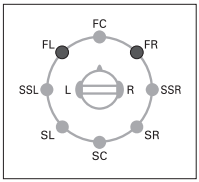
7.1ch サラウンド再生時

7.1ch サラウンドスピーカーシステムの音場を再現しています。



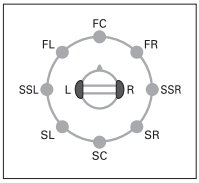
ステレオ再生時

ドルビーヘッドホンを使用して、ステレオで再生しているときに FL/FR の２つのインジケーターが点灯します。
前方のステレオスピーカーの音場を再現しています。



ステレオヘッドホン再生時

ドルビーヘッドホンをオフにしているときに L/R の２つのインジケーターが点灯します。
通常のステレオヘッドホンで再生している状態です。

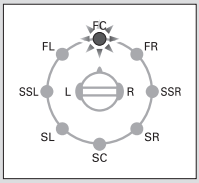


①バスブースト機能の設定表示について

トランスミッターまたはレシーバーのリモコンの BASS BOOST ボタンを操作したとき、設定に合わせて音声チャンネルインジケーターが点灯します。

設定は6段階あり、**バスブースト オン（+1）、+2、・・・・・+5、オフ**の順で切り換わります。

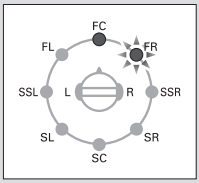
「+5」のときに低音が最も強調されます。
インジケーターは FC の位置を起点に右回りに点灯します。



バスブースト オン（+1）

BASS BOOST ボタンを押すと FC が点灯。

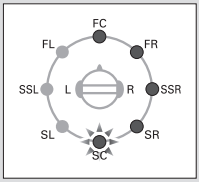
↓ BASS BOOST ボタンを押す



+2

FC、FR が点灯。

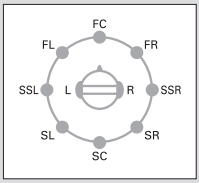
・
・
・



+5

FC、FR、SSR、SR、SC が点灯。

↓ BASS BOOST ボタンを押す



オフ

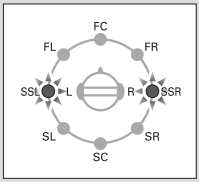
②音声モード（主音声 / 副音声）表示

OPT1 入力端子、OPT2 入力端子に、テレビの2カ国語放送などの多重音声を入力しているときに、再生中の音声モードを表示します。
DOLBY PL Ⅱx ボタンを押して、音声モードを切り換えます。

※アナログ入力端子と接続している場合は、視聴する機器側で音声モードを変更してください。

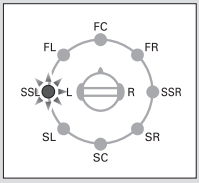
主音声 / 副音声同時再生時

SSL と SSR のインジケーターが点滅します。



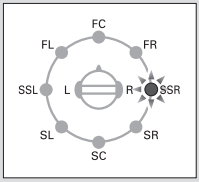
主音声のみ再生時

SSL のインジケーターが点滅します。



副音声のみ再生時

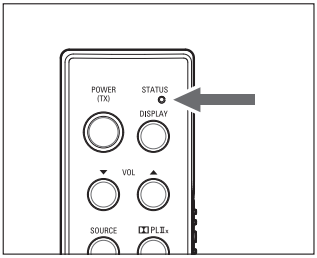
SSR のインジケーターが点滅します。



※ボタンを押して約5秒後に音声チャンネルインジケーターは通常の表示に戻ります。

リモコン付きレシーバー

STATUS インジケーター



色や動作でレシーバーの状態を表示します。
色は、**赤、橙、緑**の３色、動作は**点灯、点滅、３回点滅**をします。

点滅は下記の３種類があります。

通常点滅 約**１秒間隔**で点滅します。

ゆっくり点滅 通常点滅より **1/2 の速度**でゆっくり点滅します。

早い点滅 通常点滅より**２倍の速度**で早く点滅します。

• レシーバーの電源がオフのときは消灯します。

消灯

• トランスミッターとレシーバーの接続は、インジケーターの動作で確認できます。

点灯 トランスミッターと接続しています。

通常点滅 トランスミッターと未接続。
トランスミッターを検索中。

• レシーバーの充電残量により、インジケーターの色が変わります。

赤 充電残量が少ない状態

緑 充電が満たされている状態

• レシーバーの電源状態により、充電中のインジケーターの動作が変わります。

橙 ＋ **点灯** レシーバーの電源**オン**の状態で充電中*

*レシーバーとトランスミッターが接続している場合

橙 ＋ **ゆっくり点滅** レシーバーの電源**オフ**の状態で充電中

• インジケーターがレシーバーのボタンを押すたびに３回点滅をします。（インジケーター色は、その時の充電状況により違います。）

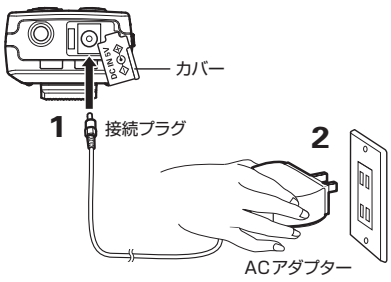
※ボリュームボタンを押して音量の調整する際、音量の最大・最小値になると３回点滅はしません。

• トランスミッターとレシーバーのペアリング

橙 ＋ **早い点滅** ペアリング中。

充電のしかた（リモコン付きレシーバー）

レシーバーには、リチウムポリマー充電池を内蔵しています。初めてレシーバーを使用する場合は、付属の AC アダプターで充電してください。また、使用中にレシーバーの STATUS インジケーターが赤色になった場合も内蔵充電池の消耗が考えられますので、充電してください。充電のしかたは下記の手順に従って行なってください。



※充電されていない状態から満充電までにかかる時間は約3.5時間です。満充電で約6時間ご使用いただけます。（使用条件によって時間が異なる場合があります。）

●レシーバーの電源がオフの状態からの充電*

1. レシーバー（下部）のDC入力端子のカバーを外し、付属のACアダプターを接続します。
2. ACアダプターを家庭用コンセントに差しこみます。充電が開始されると、STATUS インジケーターが橙色にゆっくり点滅します。
3. STATUS インジケーターが消灯すると充電完了です。コンセントから外し、レシーバーのDC キャップを付けて使用してください。

*レシーバーの電源がオンの状態で充電することもできます。その場合は STATUS インジケーターが橙色になり、トランスミッターとの接続状況で動作が変わります。

注意

- 充電中は AC アダプターやレシーバーが温かくなりますが、異常ではありません。また、充電終了直後は温度が高くなっていますので、ご注意ください。
- 充電が完了したら、レシーバーを AC アダプターから取り外してください。
- 充電中、近くにあるテレビやラジオにノイズが入ることがあります。このような場合は、テレビやラジオから離れたコンセントをご使用ください。
- ホットカーペットの上やストーブの前面、直射日光の当たるところ、炎天下の車内など、高温になる場所で充電しないでください。高温になると温度保護機能が働き充電を停止することがあります。
- 気温が 0 ～ 40℃の場所、結露の発生しない場所で充電してください。

■内蔵充電池の交換のしかた

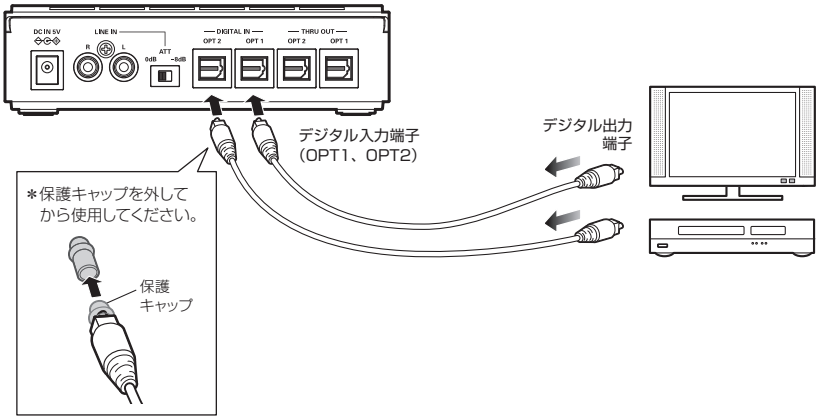
本製品を充分に充電しても使用時間が短くなった場合は、内蔵充電池の寿命が考えられます。内蔵充電池の交換は、お客様ご自身で行なわず、当社サービスセンターへご相談ください。

●サービスセンター　0120-887-416
携帯電話・PHS などのご利用は　03-6746-0212

接続のしかた

デジタル音声を入力する場合

DVDプレーヤーやデジタル放送のチューナーなどデジタル出力端子が搭載されている機器と接続します。接続の際は、接続機器の光デジタル出力と、本製品のトランスミッター背面のデジタル入力端子を付属の光デジタルケーブル* などで接続します。



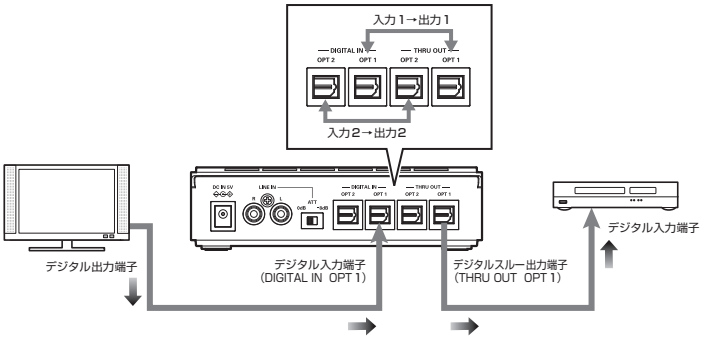
接続する機器の取扱説明書をお読みいただき、音声出力の設定をDolby Digitalなどのマルチチャンネルに対応した出力に設定してください。「PCM出力」などに設定されている場合、充分なサラウンド効果が得られません。

注意

- 光デジタルケーブルは外部からの衝撃や、曲げに対して弱いためプラグを抜き差しするときなど取り扱いにご注意ください。
- 接続する再生機器のデジタル音声出力のサンプリング周波数設定を32/44.1/48kHzいずれかに合わせてください。96kHzには対応していません。対応しない周波数の信号を入力するとSOURCEインジケーターが点滅します。
- ポータブル機器などの丸形ミニジャックの光デジタル出力を接続するときは、市販の光デジタルケーブル（丸形ミニプラグ⟷角形光プラグ）で接続してください。
- パソコンからのデジタル入力は動作保証いたしません。

デジタルスルーアウト機能を使用する場合

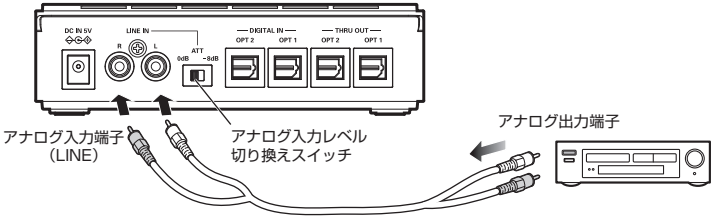
デジタル出力端子が不足しているときなど、デジタルスルーアウト機能を使用して、ご使用中のAV機器に本製品を接続することができます。
デジタル入力端子1 に接続した場合の出力は、**デジタルスルー出力端子1** になります。
デジタル入力端子2 に接続した場合の出力は、**デジタルスルー出力端子2** になります。



※デジタルスルーアウト機能を使用して接続する場合は、トランスミッターのACアダプターは外さないでください。トランスミッターおよびレシーバーの電源がオフの状態でも有効です。

アナログ音声を入力する場合

ビデオデッキなどのアナログ出力端子と本製品のアナログ入力端子（LINE IN）を、ラインケーブル（別売）で接続します。



入力された音が小さいときは（アナログ入力レベル切り換えスイッチ/ATT）

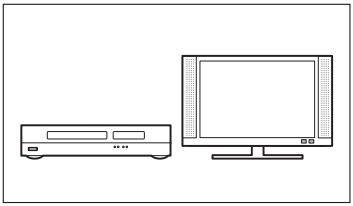
ポータブルオーディオなどの出力レベルの低い機器を接続する場合や、アナログ入力端子に入力された音が小さいときは、トランスミッター背面のアナログ入力レベル切り換えスイッチを「0dB」に切り換えてください。入力された音声が歪むときは「-8dB」に切り換えてください。

※お買い上げ時は「-8dB」に設定されています。

使いかた

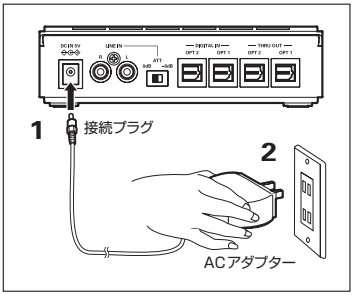
ワイヤレスヘッドホンで音声を聞く

本製品を使用する前に、「接続のしかた」をご確認のうえ、本製品と接続機器を正しく接続してください。また、接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。



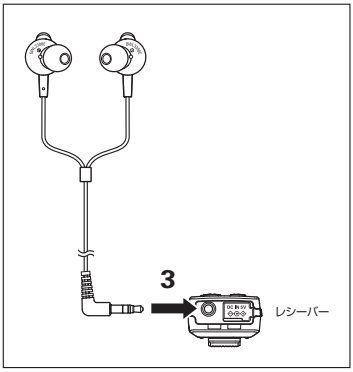
1. 接続している機器の音量を最小にして、電源を入れます。

デジタル音声を使用する場合
接続する機器の取扱説明書をお読みになり、音声出力の設定を Dolby Digital などのマルチチャンネルに対応した出力に設定してください。「PCM 出力」などになっている場合、充分なサラウンド効果が得られません。



2. トランスミッター背面にある DC 入力端子に AC アダプターの接続プラグを差し込み、AC アダプターをコンセントに差し込みます。POWER インジケーターはスタンバイ状態（赤色点灯）になります。

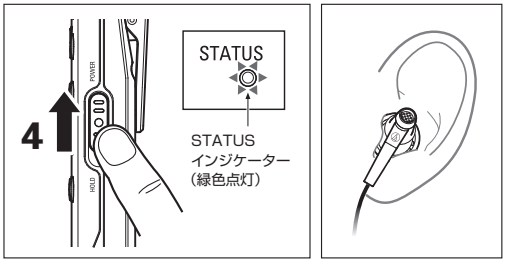
※ 初めて使用するとき以外は、ラスト·ファンクション機能（28 ページ）により POWER ボタンの情報を記憶しており、すでに電源がオンまたはオフになっている場合があります。



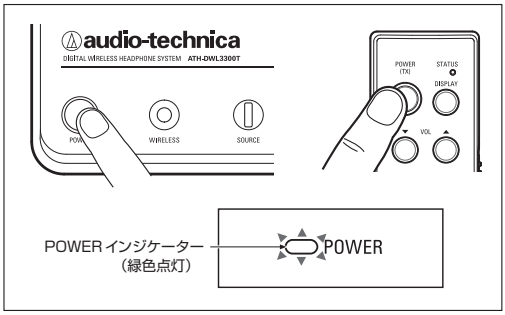
3. レシーバーのヘッドホン出力端子にヘッドホン* を接続します。

＊同梱のヘッドホン以外も使用できます。
接続するヘッドホンによっては、サラウンドの感じかたが変わる場合もあります。同梱しているヘッドホン以外を使用した場合は、動作保証いたしません。

推奨インピーダンス：16 Ω～64 Ω
（インピーダンスが大きいと音量が小さくなります。）

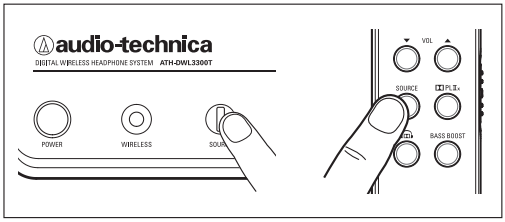


4. レシーバーの POWER スイッチを矢印の方向へスライドさせて電源をオンにします。STATUS インジケーターが緑色に点灯します。
ヘッドホンの “LEFT”（左）の表示側を左耳に、“RIGHT”（右）の表示側を右耳に、図のように装着します。

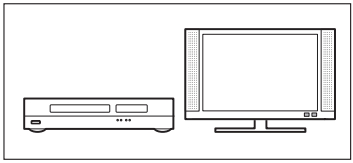


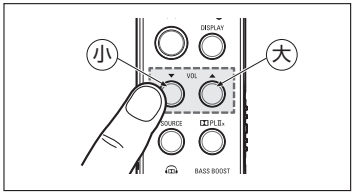
5. トランスミッターまたはレシーバー＊の POWER ボタンを押し、トランスミッターの電源を入れます。
POWER インジケーターはオン（緑色点灯）になります。

＊トランスミッターの電源がオフ（POWER インジケーター：消灯）の場合は、レシーバーで操作できません。



6. トランスミッターまたはレシーバーの SOURCE ボタンで、視聴したい入力端子を選択します。
SOURCE インジケーターには選択された入力端子が点灯します。





7. 接続している機器を再生し、レシーバーのボリュームボタンでお好みの音量に調整してお楽しみください。

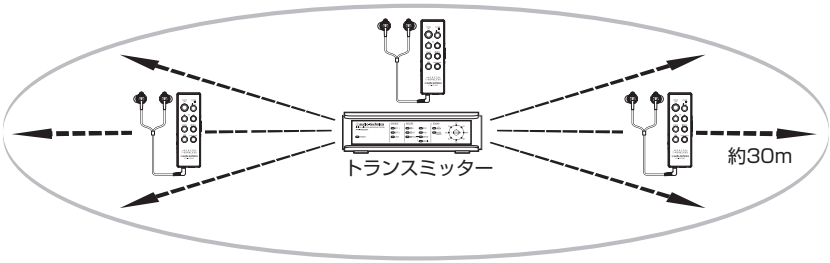
※ボリュームボタンを押して音量の調整をする際、音量の最大・最小値になると３回点滅はしません。

トランスミッターまたはレシーバーの DOLBY PLⅡx ボタンや DOLBY HEADPHONE ボタンを押してお好みの音声に切り換えて使用してください。
また、お好みに合わせて BASS BOOST ボタンで音質を調整してください。

レシーバー（ヘッドホン）を増設する

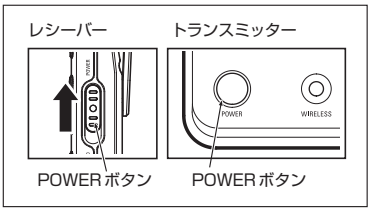
別売の増設用レシーバーセットATH-DWL3300REをお買い求めいただくと、複数の人で視聴を楽しむことができます。

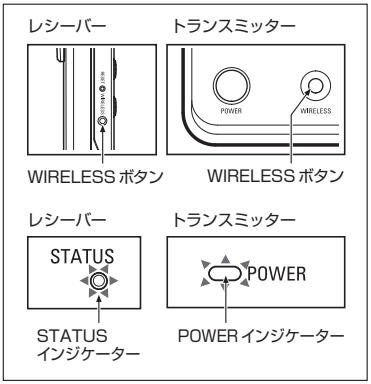
レシーバーは、電波の送信範囲内であれば複数台を同時に使用することができますが、使用前にトランスミッターとペアリングが必要です。下記の「レシーバーとトランスミッターのペアリングのしかた」の手順に従い、ペアリングを行なってください。



●レシーバーとトランスミッターのペアリングのしかた

増設用レシーバーセット（ATH-DWL3300RE）を使用する場合には必ずペアリングを行なってください。





1. トランスミッターは POWER ボタンを押し、レシーバーは POWER/HOLD スライドスイッチをスライドさせて、それぞれの電源をオンにします。

※トランスミッターとレシーバーを 1m以内に近付けてください。

2. トランスミッターとレシーバーの WIRELESS ボタンを同時に長押します。
トランスミッターのPOWERインジケーターとレシーバーのSTATUSインジケーターが橙色に点滅します。
橙色点滅が緑色点灯に変わるまで押し続けてください。

3. POWER インジケーターと STATUS インジケーターが緑色点灯したらペアリングの完了です。

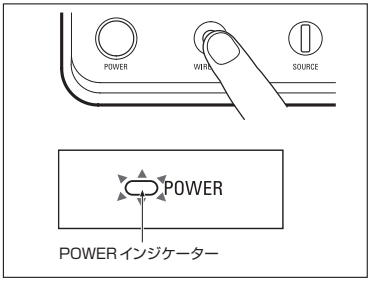
※ペアリングが正常に完了しなかった場合は、再度ペアリングを行なってください。

※レシーバーの充電残量が少ない場合は、ペアリングができません。充電を行なってからペアリングを行なってください。

そのほかの機能

●送信周波数の変更

本製品の送信周波数は、出荷時の設定（AUTO）により3つの送信周波数から最適な周波数を自動的に選択しています。ほかの無線機器に影響が出るなど電波干渉が疑われる場合には、以下の手順で送信周波数を固定してください。



1. トランスミッターの電源がオンの状態で WIRELESS ボタンを短押しします。ボタンを押すたびに、周波数1、周波数2、周波数3、AUTO の順で変更されます。

トランスミッターのPOWERインジケーターの表示が橙色に点灯･点滅します。

- ■ 1 回点滅 · · · · · · · · 周波数1
- ■ 2 回点滅 · · · · · · · · 周波数2
- ■ 3 回点滅 · · · · · · · · 周波数3
- ■ 点灯のみ · · · · · · · · AUTO

●電源スタンバイ機能 / 電源オフ機能

トランスミッターがオンの状態で、トランスミッターまたはレシーバーのPOWER ボタンを押すと完全に電源がオフになるのではなく、スタンバイの状態（POWERインジケーター：赤色点灯）になります（電源スタンバイ機能）。
これに対し、トランスミッターのPOWER ボタンを長押しすると、電源オフ状態（POWERインジケーター：消灯）になります（電源オフ機能）。
電源オフ状態は、トランスミッターからの電波の発生を止めることができます。ほかの無線機器に影響がある場合などは、電源オフにしてください。（10 ページ）

※電源オフの状態でもデジタルスルーアウト機能は使用できます。
※電源オフの状態では、レシーバーからの操作はできません。

●オートパワーオフ機能

オートパワーオフ機能は、トランスミッター、レシーバーのそれぞれに搭載されています。トランスミッターは、入力信号を約10分間感知しない状態が続くと自動でスタンバイ状態になります。また、レシーバーは、トランスミッターからの音声を約5分間受信しない状態が続くと自動で電源がオフになります。

※トランスミッターのオートパワーオフ機能は、デジタル入力端子を選択している場合のみ機能します。アナログ入力端子を選択している場合は機能しません。

●ラスト・ファンクション機能

それぞれの電源をオフにしたとき、各設定値を記憶する機能です。
下記の設定を記憶します。

●トランスミッター

- ■ POWER ボタンのオン / スタンバイオフ状態
- ■ 選択した入力端子
- ■ ドルビープロロジックⅡx の設定（各入力端子）
- ■ ドルビーヘッドホンの設定（各入力端子）
- ■ BASS BOOST の設定（各入力端子）
- ■ DISPLAY 設定

●レシーバー

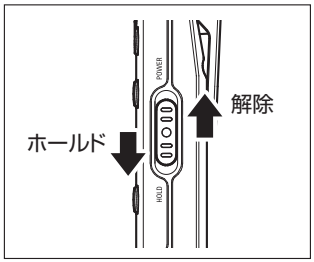
- ■ ボリューム設定

●ディスプレイオフ機能

トランスミッターまたはレシーバーの DISPLAY ボタンを押すと、POWER インジケーター以外のインジケーターの表示をオフにすることができます。DISPLAY ボタンを押すごとにオン / オフが切り換わります。部屋を暗くして映画を視聴するときなど、トランスミッターのインジケーターを消灯させたいときに使用してください。

インジケーターがオフの状態でトランスミッターまたはレシーバーを操作すると、インジケーターが約５秒間点灯し、設定を確認できます。

●レシーバーホールド機能



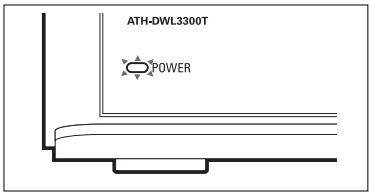
本製品のレシーバーにはボタンの誤操作を防止するためにレシーバーホールド機能を搭載しております。
レシーバーの POWER/HOLD スライドスイッチを HOLD と表示されている方向へカチッと音がするまでスライドさせてください。レシーバーホールド機能を解除する際は、POWER と表示されている方向にスライドさせてください。

※レシーバーホールド機能を使用中は、レシーバー側面の RESET ボタンのみ使用できます。

リセットのしかた

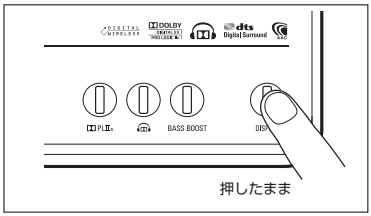
●トランスミッター

トランスミッターの設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

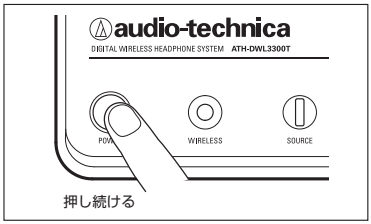


1. トランスミッターに ACアダプターを接続して、スタンバイ状態にします。

※ POWER インジケーターが赤色点灯



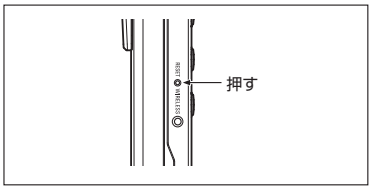
2. トランスミッターの DISPLAY ボタンを押したまま、POWER ボタンを押し続けます。



3. POWER インジケーターが 橙色に点灯し、初期化が完了すると赤色の点灯になります。
DISPLAY ボタンと POWER ボタンを離してください。

●レシーバー

レシーバーがフリーズした場合、下記の手順でリセットしてください。



1. レシーバーの RESET ボタンを先の細いもので押してください。

2. STATUS インジケーターが消灯します。
消灯するとリセットの完了です。

3. レシーバーの POWER/HOLD スライドスイッチをスライドさせて電源をオンにして使用してください。

※リセット後に電源をオンにすると、ラスト･ファンクション機能で、フリーズする前の正常に電源をオフしたときの音量設定を記憶しております。設定によっては、ヘッドホンから大音量が出る場合がありますので、ご注意ください。

お手入れのしかた

長くご使用いただくために各部のお手入れをお願いいたします。お手入れの際は、アルコール、シンナーなど溶剤類は使用しないでください。

●トランスミッター / リモコン付きレシーバー

乾いた布で汚れを拭いてください。

●ヘッドホン

乾いた布で汚れを拭いてください。特にイヤピース装着部（右図参照）は、イヤピースを通して皮脂などの汚れが付着します。汚れが付着したまま使用すると、イヤピースが外れやすくなります。こまめに汚れを拭いてください。なお、音が出る部分は繊細なため、触らないようにしてください。故障の原因になります。

●ヘッドホンコードについて

汗などで汚れた場合は、使用後すぐに乾いた布で拭いてください。汚れたまま使用すると、コードが劣化して固くなり、故障の原因になります。

●プラグについて

プラグが汚れた場合は、乾いた布で拭いてください。プラグが汚れたまま使用すると、音とびや雑音が入る場合があります。

●長い間ご使用にならない場合は、高温多湿を避け、風通しの良い場所に保管してください。

＊イヤピースのお手入れは、「イヤピースについて」→「お手入れのしかた」（15 ページ）を参照ください。

故障かな？と思ったら

「故障かな?」と思った場合は、以下の項目を参考に点検を行なってください。
点検後も解決しない場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口（35 ページ）にお問い合わせください。

症状	確認項目	原因と対応のしかた
ヘッドホンの音が出ない	接続	レシーバーの音量を確認してください。(25 ページ) 本製品と視聴する機器の接続を確認してください。(22、23 ページ) 接続した機器の電源を入れ、再生していることを確認してください。(24,25 ページ) 接続した入力端子と SOURCE インジケーターが合っているかを確認してください。(14、16 ページ) 視聴する機器のヘッドホン端子に本製品を接続している場合は、接続している機器の音量を確認してください。
	電池	レシーバーの電池が消耗している。レシーバーの電源をオンにしても STATUS インジケーターが点灯しない場合は、以下の項目を確認ください。 ・レシーバーを充電してください。（21 ページ）
	電波に関して	レシーバーがトランスミッターからの電波を受信できていない。以下の項目を確認してください。 ・トランスミッターの電源がオンになっていることを確認してください。（16、25 ページ） ・トランスミッターとレシーバーの設置場所を見通しのよい場所に変更してください。(11 ページ) ・レシーバーとトランスミッターのペアリングを再度行なってください。(26ページ)
	再生機器	DTS 出力に対応していない再生機器で DTS の音声トラックを再生している。別の音声トラックを選択するか、DTS 出力に対応した再生機器を使用してください。
	再生機器の設定	再生機器の DTS デジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTS 音声を再生している。再生機器の取扱説明書をお読みになり、DTS デジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。
		再生機器と本製品をアナログ接続している状態で、DTS 音声を再生している。デジタル入力端子で接続してください。DTS 音声の再生時に再生機器からアナログ音声が出力されない場合があります。(22、23 ページ)
	断線	上記の内容で解決しない場合、ヘッドホンのコードが断線している可能性があります。当社お客様相談窓口（35 ページ）にお問い合わせください。
ワイヤレスヘッドホンの音が途切れる / ノイズが入る（到達距離が短い）	電波に関して	電波の受信状態が悪い。以下の項目をご確認ください。 ・電波が干渉している。周囲に 2.4GHz 帯の電波を使用する機器がないか確認してください。(10 ページ) ・トランスミッターとレシーバーの設置場所を見通しのよい場所に変更してください。(11 ページ)
	接続が途切れる	接続ケーブルが各端子にしっかりと接続されていることを確認してください。光ケーブルの先端にごみなどが付着していないか、ケーブルが折れ曲がっていないか確認してください。
	再生機器	ディスク再生時に音飛びしている。再生するディスクに傷や汚れがないか確認してください。また、再生機器のピックアップレンズが汚れていないか確認してください。

症状	確認項目	原因と対応のしかた
デジタルスルー出力端子に接続した機器から音が出ない	接続	AC アダプターがコンセントに接続されているかを確認してください。 (23 ページ)
音が歪む (アナログ入力の場合) ※同時にノイズが出る場合もある。	本製品の設定	·トランスミッター背面のアナログ入力レベル切り換えスイッチを「−8dB」に設定してください。(23 ページ) · バスブーストを小さくしてください。(19 ページ)
	再生機器の設定	視聴する機器のヘッドホン端子に本製品を接続している場合は、接続した機器の音量を歪まない程度に小さくしてください。
音が小さい	本製品の設定	トランスミッター背面のアナログ入力レベル切り換えスイッチを「0dB」に設定してください。(23 ページ)
	再生機器の設定	視聴する機器のヘッドホン端子に本製品を接続している場合は、接続した機器の音量を大きくしてください。また、レシーバーの音量を大きくしてください。 (25 ページ)
サラウンド効果が得られない / 音声チャンネルインジケーターがマルチチャンネルの状態で点灯しない	本製品の設定	ドルビーヘッドホンの設定が「オフ」(DOLBY HEADPHONE インジケーターが消えた状態) になっている。ドルビーヘッドホンを「オン」にしてください。 (12、17、25 ページ)
	再生ソフト	· 再生中の音声がサラウンドフォーマット (ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、AAC) に対応していない。(17 ページ) · 再生中の音声がステレオの場合はドルビープロロジックⅡx の設定を「オン」(「MOVIE」「MUSIC」) にしてください。(12、17、25 ページ)
	再生機器の設定	再生機器のデジタル音声出力の設定が「PCM」になっている。再生機器の取扱説明書をお読みになり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定 (「Dolby Digital」など) に切り換えてください。
	本製品の設定	入力信号がステレオのときに、ドルビープロロジックⅡx の設定が「オフ」(すべての DOLBY PLⅡx インジケーターが消えた状態) になっている。ドルビープロロジックⅡx の設定を「オン」(「MOVIE」「MUSIC」) にしてください。(12、17、25 ページ)
DOLBY DIGITAL インジケーターが点灯しない (DD D)	再生機器の設定	再生機器のデジタル音声出力の設定が「PCM」になっている。再生機器の取扱説明書をお読みになり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定 (「Dolby Digital」など) に切り換えてください。(17ページ)
	再生ソフト	再生中の音声がドルビーデジタルフォーマットで記録されているか確認してください。(17 ページ)
DOLBY EX インジケーターが点灯しない (DD EX)	再生機器の設定	再生機器のデジタル音声出力の設定が「PCM」になっている。再生機器の取扱説明書をお読みになり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定 (「Dolby Digital」など) に切り換えてください。
	再生ソフト	再生中の音声がドルビーデジタル EX フォーマットで記録されているか確認してください。(17 ページ)
	本製品の設定	·ドルビーデジタル EX 信号を 6.1ch で再生する場合はドルビープロロジックⅡx を「オフ」にしてください。(12、17、25 ページ) ·ドルビーヘッドホンが「オフ」になっている場合は「オン」にしてください。 (12、17、25 ページ)

症状	確認項目	原因と対応のしかた
DTS インジケーターが点灯しない（DTS）	再生機器の設定	再生機器の DTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTSフォーマットで記憶された DVD を再生している。再生機器の取扱説明書をお読みになり、DTS デジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。（17ページ）
	再生ソフト	再生中の音声が DTS フォーマットで記録されていない。（17ページ）
	再生機器	再生機器が DTS 出力に対応していない。「Dolby Digital」など別の音声トラックを選択するか、DTS 出力に対応した再生機器を使用してください。（17ページ）
AAC インジケーターが点灯しない（AAC）	再生機器の設定	接続したデジタル放送テレビ・チューナーのデジタル音声出力の設定が「PCM」になっている。デジタル放送テレビやチューナーの取扱説明書をお読みになり、AAC 信号が出力されるように設定を変更してください。（17ページ）
DOLBY PL Ⅱx インジケーターが点灯しない（ PL Ⅱx）	本製品の設定	・ドルビープロロジックⅡxの設定が「オフ」（すべてのDOLBY PL Ⅱxインジケーターが消えた状態）になっている。ドルビープロロジックⅡxの設定を「オン」（「MOVIE」「MUSIC」）にしてください。（12、17、25 ページ） ・ドルビーヘッドホンが 「オフ」になっている場合「オン」にしてください。（12、17、25 ページ）
	再生ソフト	ドルビープロロジックⅡxが適用できないチャンネル構成になっている。 ドルビープロロジックⅡxはステレオ（2チャンネル）音声のほか、5.1チャンネル音声のようにステレオサラウンドチャンネル（SL、SR）を持つマルチチャンネル音声に適用できます。適用できるチャンネル構成の音声になっていることを確認してください。（17ページ）
POWER インジケーター以外のインジケーターが点灯しない	本製品の設定	ディスプレイオフ機能が動作していないか確認してください。DISPLAY ボタンを押し、ディスプレイオフ機能を解除してください。（28 ページ）
トランスミッターの電源が入らない	接続	AC アダプターがコンセントに接続されているかを確認してください。（24 ページ）
	本製品の設定	トランスミッターの電源オフ時は、レシーバーの操作ができません。 トランスミッターのPOWERボタンを押して電源を入れてください。（27ページ）
レシーバーの電源が入らない	内蔵充電池	レシーバーを充電してください。（21 ページ）
	本製品の設定	RESET ボタンを押してリセットしてください。（29 ページ）
レシーバーの操作ができない	本製品の設定	・レシーバーの電源がオンになっているか確認してください。（25 ページ） ・レシーバーのホールド機能が動作していないか確認してください。（28 ページ） ・トランスミッターの電源オフ時は、レシーバーの操作ができません。 トランスミッターの電源をオンにしてから、レシーバーを使用してください。
	電波に関して	トランスミッターがレシーバーからの電波を受信できていない可能性があります。トランスミッターとレシーバーの設置場所を見通しのよい場所に変更してください。
	その他	フリーズしている可能性があります。RESET ボタンを押してリセットしてください。（29 ページ）

テクニカルデータ

トランスミッター

デコーダー機能
ドルビーデジタル
ドルビー EX
DTS
AAC
ドルビープロロジックⅡx

バーチャルサラウンド機能
ドルビーヘッドホン

変調方式
DS-SS

送信周波数帯域
2.4GHz 帯

到達距離
最長約 30m

入力
光デジタル入力（角形光ジャック）× 2 系統
アナログ入力（RCA ピンジャック L/R）×1 系統

出力
光デジタルスルー出力（角形光ジャック）× 2 系統

電源
DC5V（付属の AC アダプターを使用）

最大外形寸法
約 H43 × W151 × D127mm

質量
約 325g

付属品

AC アダプター（AD-SD0520AD）× 2
光デジタルケーブル（角形光プラグ、1.5m）× 1
イヤピース（XS,S,M,L サイズ）×各1ペア
ヘッドホン延長コード（0.6m）× 1

ヘッドホン

型式
ダイナミック型

ドライバー
φ14.5mm

出力音圧レベル
104dB/mW

再生周波数帯域
5 ～ 25,000Hz

最大入力
100mW

インピーダンス
16 Ω

コード長
0.6m（Y 型*）*左右のコードの長さが同じです。

質量
約 5.7g

交換イヤピース
ER-CKM55XS,S,M,L

レシーバー

出力
40mW + 40mW

電源
DC3.7V（内蔵のリチウムポリマー充電池を使用）
または DC5V（付属の AC アダプターを使用）

連続使用時間
約 6 時間（0.1mW + 0.1mW 出力時）

外形寸法
約 H100 × W32 × D24mm（突起部除く）

質量
約 50g

（改良のため予告なく変更することがあります。）

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先（電話受付 / 平日 9：00 ～ 17：30）

製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。

●お客様相談窓口（製品の仕様・使いかた）　0120-773-417

（携帯電話・PHS などのご利用は　03-6746-0211）

FAX：042-739-9120　E メール：support@audio-technica.co.jp

●サービスセンター（修理・部品）　0120-887-416

（携帯電話・PHS などのご利用は　03-6746-0212）

FAX：042-739-9120　E メール：servicecenter@audio-technica.co.jp

●ホームページ（サポート）

www.audio-technica.co.jp/atj/support/

株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666　東京都町田市成瀬2206
http://www.audio-technica.co.jp

© 2012　株式会社オーディオテクニカ
1395-01040C